

令和7年度 学校評価 報告書

唐津看護専門学校
(看護高等課程・看護専門課程)

令和8年5月8日

目 次

1. 学校運営評価の概要

2. 評価結果

項目1. 教育理念・目的・目標

項目2. 教育課程・教育の実施・学修成果

項目3. 学生の受入れ・学生支援

項目4. 教育実施組織・教員

項目5. 教育環境

項目6. 教育活動の基盤と改善・向上の取組

3. 総括

3-1. 高等課程総括

3-2. 専門課程総括

3-3. 養成所全体としての総括

1. 学校運営評価の概要

1) 学校運営評価の目的、方針

学校運営評価は、本校の教育理念に基づき、専門課程および高等課程における教育活動の現状を客観的かつ体系的に把握し、教育の質保証および継続的改善を図ることを目的として実施するものである。

具体的には、教育課程の適切性、学修成果、学生支援、教員組織、教育環境、さらに学校運営の基盤整備や改善の取組状況を総合的に検証し、その結果を公表することで、学校としての説明責任を果たすとともに、地域社会・学生・保護者との信頼関係を強化し、より良い教育活動の実現につなげる。

また、本校では、学校評価委員が実施した自己評価の結果について、第三者である第三者評価委員が評価を行う。これは、自己評価の妥当性を検証し、評価の客観性・公正性・透明性を高めることを目的とするものである。第三者評価により、本校の学校運営における課題をより明確にし、委員からの意見を参考に学校運営の改善を図る。

なお、第三者評価は、本校の自己評価を基礎資料とし、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価に関する要綱・実施要綱に則り実施する。

2) 学校評価委員

学校委員氏名	所 属
服巻信也	唐津看護専門学校 学校長
本城史郎	唐津看護専門学校 副学校長
中村晃子	唐津看護専門学校 担当理事
横山敬司	唐津東松浦医師会 事務局長
市川豊子	唐津看護専門学校 副学校長
西田淳子	唐津看護専門学校 看護専門課程教務主任
武田玲子	唐津看護専門学校 看護高等課程教務主任
荒巻泰子	唐津看護専門学校 看護専門課程教務副主任
浦 恵	唐津看護専門学校 看護高等課程教務副主任

3) 第三者評価委員

第三者委員	所 属
渡邊 尚	NPO法人グローアップナーシングからつ 理事長
藤崎大整	NPO法人グローアップナーシングからつ
香月隆司	社会福祉法人唐津福祉会 常務理事
楮山久美子	佐賀県看護協会北部地区支部長

4) 第三者評価方法

第三者評価は、令和7年度自己評価の結果を基礎として、その妥当性・客観性・透明性を確保することを目的に、外部有識者で構成する第三者評価委員が以下の方法で実施する。

- ①自己評価の結果および課題が適切かどうか。
- ②学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか。
- ③学校運営に関する助言

5) 学校評価の内容

学校自己評価、第三者評価に共通して、評価は以下の6項目（大項目）について4段階評価（表1）で実施する。

- ①教育理念・目的・目標
- ②教育課程・教育の実施・学修成果
- ③学生の受入れ・学生支援
- ④教育実施組織・教員
- ⑤教育環境
- ⑥教育活動の基盤と改善・向上の取組

表1 評価の4段階の基準

適切（十分に達成）	4点	目標や基準を十分に満たしており、継続的な改善も見られる。教育活動や運営が計画的かつ効果的に行われており、成果も確認できる状態。
ほぼ適切（一部に改善の余地がある）	3点	目標は達成しているが、一部に改善の余地はある状態。小さな課題はあるが、教育の質や運営に大きな支障はない。
やや不適切（目標達成には不十分）	2点	取り組みはあるが、目標達成には不十分。改善が必要な領域が明確に存在する。
不適切	1点	取り組みが不十分、または実施されていない。早急な改善が求められる。

各評価者による採点結果については、平均点（小数点第二位を四捨五入し小数点第一位まで表示）を算出し、表2の基準に基づきA～Dの総合評価を付した。

表2 評価規準

評価	基準	平均点
A	適切	4.0～3.5点
B	ほぼ適切	3.5未満～3.0点
C	やや不適切	3.0未満～2.5点
D	不適切	2.5未満

2. 評価結果（結果・課題）

項目1. 教育理念・目的・目標

大項目	小項目	評価規準	自己点検 評価結果	第三者 評価
項目1 教育理念・ 目的・目標	1 教育理念、目的 及び目標の設定 等	医師会立看護師等養成所としての使命(地域医療への貢献、人材育成)が明確に示されている	3.8	3.8
		看護専門課程と准看護師科の目的が整合し体系的に設定されている		
		理念・目標が社会の医療ニーズ(高齢化、地域包括ケア等)に対応している		
		理念・目標が学生・教職員・実習施設に周知されている		
		理念が教育課程や指導内容に反映されている		

委員の 評価	A
看護高等課程（准看護師科）	
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療に貢献する准看護師育成という理念が明確で、学生・教職員・実習施設に概ね共有されている。 ・社会の医療ニーズ（高齢化・地域包括ケア）に対応した目標設定が行われている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生への理念・DP 浸透が不十分で、周知の機会に偏りがあり、アンケート実施時期も不安定で、継続的評価が難しい。 ・実習中でも理念を意識できる仕組みが必要である。
看護専門課程（看護師科）	
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・教育目標・DP（ディプロマポリシー）が整合的に設定され、学修成果評価にも反映されている。 ・ルーブリックを用いた到達度評価が実施され、学年ごとの課題分析が行われている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・DP の一部項目で学年差が大きく、特に2年生の実践力不足が顕著である。 ・段階的な学習支援と実習経験の充実が必要であり、DP 評価基準の見直しも求められる。

第三者 評価	適合
コメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療に必要とされる医療人材が、圏域の医療機関へ適切に供給されており、その教育理念や目的が十分に達成されている。 ・学生の価値観の多様性の中、教育理念の中の職業看護師としての自覚と引き続き教育目標の到達へ向かって継続していくことが大切。 	

項目2. 教育課程・教育の実施・学修成果

大項目	小項目	評価規準	自己点検評価結果	第三者評価	
項目2 教育課程、 教育の実 施、学修成 果	1 教育課程の編成 と授業科目	看護基礎教育として必要な知識・技術・態度が体系的に組み込まれている	3.7	3.7	3.8
		進学コースと准看護師科の教育内容の連続性・整合性が確保されている			
		授業科目の構成・時間配分が適切である			
		実習科目が地域医療機関と連携して適切に配置されている			
	2 教育の実施	授業が計画的に実施され、学習目標が明確に示されている	3.5		
		実習指導が適切に行われ、実習施設と指導に関する連携が機能している			
		ICTや教材が効果的に活用されている			
		授業改善(授業評価、教員間の検討)が行われている			
	3 単位・卒業認定	単位認定基準、履修認定基準が明確で適切に運用されている	4.0		
		出席管理・成績評価が公正に行われている			
		卒業認定の基準が妥当で透明性がある			
	4 学修成果目標の 達成状況	学修成果(技術チェックリスト、OSCE、実習評価等)が適切に評価されている	3.7		
准看護師資格試験・看護師国家試験の結果が分析され、教育改善に活用されている					
卒業生の進路状況が把握され、教育成果として検証されている					

委員の 評価	A
看護高等課程（准看護師科）	
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 系統性・段階性を踏まえた教育課程が整備されている。 ・ 実習施設との連携が安定し、実習指導が適切に行われている。 ・ 成績評価基準が明確で、公正な運用がなされている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 活用が限定的で、教材のデジタル化が今後の課題。 ・ 授業改善の仕組み（教員間の検討会など）を体系化する必要がある。
看護専門課程（看護師科）	
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新カリキュラムに沿った運営が行われ、週テスト・模試・講習など学修支援が充実。 ・ 1～3 年次で段階的な国家試験対策が体系化されている。国家試験合格率は 96%であった。 ・ OSCE・技術チェックリストなど、多面的な学修成果評価が実施されている。 ・ 留年者 2 名・退学者 2 名が発生し、個別面談や家族・職場との連携を行ったが、早期発見が難しい状況であった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年生の DP 未到達項目（DP4・DP5・DP6）に対し、実習前教育の強化が必要。 ・ 学力差が大きい学年に対しては、早期抽出と個別支援の強化が求められる。 ・ 学修成果の分析を授業改善に反映させる PDCA の強化が必要。

第三者 評価	適合
コメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標とする人材像が明確に示され、それに沿った適切な教育課程編成となっている。 	

項目3. 学生の受入れ、学生支援

大項目	小項目	評価規準	自己点検評価結果	第三者評価	
項目3 学生の受入れ、学生支援	1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)が明確である	3.8	3.8	3.8
		募集活動が適正に行われている			
		入学者選抜が公正に行われている			
		入学定員管理が適切に行われている			
	2 学生生活に関する支援	メンタルヘルス支援、生活相談体制が整備されている	3.8		
		学習支援(補習、個別指導、国家試験対策)が充実している			
		中途退学防止のための早期支援が行われている			
		定期健康診断、予防接種、感染症対応などの体制が整備されている			
		実習前後の健康チェック体制が整備されている			
		感染症流行時の対応(登校判断、実習調整等)が明確である			
		健康診断結果や相談内容を分析し、教育や支援に活かしている			
		就職支援の担当者が明確に配置されている			
		看護師国家試験・准看護師試験の結果を踏まえた進路支援が行われている			
		求人情報の提供や学生の希望や適性に応じた個別相談が実施されている			

委員の評価	A
-------	---

看護高等課程(准看護師科)	
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・高校ガイダンス、社会人向け案内、施設掲示、ハローワーク相談会、ホームページ等で募集活動を行っている。入試選考会議は公平に実施され、選抜体制や管理は適切に機能している。 ・進級率は高いが、精神的不調による退学者が発生した。学習負担や実習ストレスが影響している可能性があり、早期のメンタルサポート体制が十分ではなかった。 ・個別指導や面談で支援を行い実習継続に寄与したが、勤労学生が多く学習時間の確保が難しい。精神的变化の早期発見も難しく、支援が後手に回る場面があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・就職支援の個別化をさらに進める必要がある。 ・健康診断結果や相談内容の分析を教育改善に活かす仕組みづくりが求められる。
看護専門課程(看護師科)	
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・高等課程(准看護師科)学生へのガイダンス、医療・福祉施設等への社会人向け案内等、多様な募集活動を行っており、高等課程新卒生の学内進学者率は76%であった。入試選考会議は公平に実施され、選抜体制や管理は適切に機能している。 ・個別面談や教員間の情報共有により支援を行っているが、勤労学生が多く学習時間の確保が難しい。 ・精神的变化の早期発見も難しく、退学につながるケースも見られた。 ・実習前後の健康チェック体制が整備され、感染症対応も明確。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・一部学生の人間関係・倫理的課題への早期介入が必要。 ・留年・退学の兆候(欠席・課題未提出)を早期に把握するアラート体制の強化が必要。

第三者評価	適合
-------	----

コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人材確保に向けた多様な取り組みを積極的に展開されており、また行政との連携も図られている。
------	---

項目 4. 教育実施組織・教員

大項目	小項目	評価規準	自己点検評価結果		第三者評価
項目4 教育実施組織・教員	1 教員の配置、募集、採用	看護教員の資格・人数が基準を満たしている	3.5	3.3	3.3
		教員の採用が計画的に行われている			
		実務経験のある教員が適切に配置されている			
	2 教員の組織編制等	教員組織の役割分担が明確である	3.4		
		進学コースと准看護師科の教員が連携している			
		会議自体や情報共有の仕組みが機能している			
	3 教員の資質の向上	教員研修が計画的に実施されている	3.1		
		授業改善や研究活動が支援されている			
		教員の専門性向上が教育に反映されている			

委員の評価	B
-------	---

看護高等課程（准看護師科）	
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・教員配置の概ね人員基準を満たしているが、必須研修未受講者がいる。 ・教員間の情報共有は行われ、実習指導者との連携も概ね良好である。 ・研修参加や授業参観は行われているが、参観が後半に偏り、研修参加にも偏りがあった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・必須研修の受講体制が整っておらず、計画的な研修管理が必要 ・授業参観の計画性が不足し、年間を通じた実施が必要。 ・研修参加の偏りを是正し、新任教員育成を体系化することで、教員全体の資質向上を図る必要がある。
看護専門課程（看護師科）	
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラム対応に伴い教員の業務量が増加したが、協力体制により運営されている。研修参加は積極的であるが、教員間で経験差があり、実習調整の力量にばらつきがあった。 ・教員間の連携は概ね良好で、共同授業や情報共有が行われている。 ・研修は積極的に ICT 研修や外部講習を活用している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実習調整や授業準備における教員間の力量差が課題である。 ・教員間の連携を強化し、組織的な授業改善体制を整える必要がある。 ・授業準備の時間確保が課題であり、教材改善や授業改善に向けた計画的な取り組みが必要である。

第三者評価	適合
-------	----

コメント	<p>法令に基づき、安定した教育体制を維持できるように努力して欲しい。今後もこうした取り組みを継続し、教員の資質向上がさらに進むことを期待したい。</p>
------	---

項目 5. 教育環境

大項目	小項目	評価規準	自己点検評価結果		第三者評価
項目5 教育環境	1 教育環境の整備	看護実習室、シミュレーション機材、演習環境が整っている	3.7	3.6	3.5
		図書室・ICT環境(電子教材、Wi-Fi環境)が整備されている			
		実習施設等との連携が適切に確保されている			
	2 安全対策、防災組織	感染対策が適切に行われている	3.5		
		防災計画が整備され訓練が実施されている			
		学生の安全な環境確保のための体制が整っている			

委員の 評価	A
-----------	---

看護高等課程（准看護師科）、看護専門課程（看護師科）	
結果	<ul style="list-style-type: none"> 標準的な実習室・演習設備は整備されている。 図書室や ICT 環境が一定の水準を満たしている。 防災計画・感染対策が適切に運用されている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ICT 環境のさらなる拡充（電子教材導入、）やシミュレーション機材の更新が求められる。 医療機器学習の機会に差があり、全学生が同等の経験を積める様に、学内演習の充実や外部講師の活用など、学習機会の均質化が求められる。

第三者 評価	適合
-----------	----

コメント	
<ul style="list-style-type: none"> 有為な人材育成を行うための教育環境が整い、また、公共交通機関等の利便性も良く、立地環境に優れ、最適な教育環境と評価できる。 	

項目 6. 教育活動の基盤と改善・向上の取組

大項目	小項目	評価規準	自己点検評価結果		第三者評価
項目6 教育活動の 基盤と改 善・向上の 取組	1 財務運営の安定性と中期的視点に基づく教育環境の維持・向上	中期的視点に基づく財務運営が行われ、教育活動の継続性が確保されている	3.0	3.6	3.5
		財務状況が安定しており、教育環境の維持・改善に適切に活用されている			
	2 学校運営	組織運営が適切で意思決定が明確である	3.9		
		医師会との連携が教育活動の基盤として機能している			
	3 学校評価の実施と改善活動	自己点検・学校関係者評価が計画的に実施されている	3.6		
		学校評価の結果及び改善状況についての情報を公表している			
		評価結果が改善に活用されPDCAが機能している			
	4 社会からの理解と情報の公表	学校情報(教育内容、活動や成果等)が適切に公開されている	4.0		
地域医療機関・行政との連携や社会貢献が行われている					

委員の評価	A
-------	---

看護高等課程（准看護師科）・看護専門課程（看護師科）	
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は医師会立養成所として総会で事業計画・実施報告を行い、公益目的支出計画や予算委員会で財務状況を適切に管理している。学生数減少に伴う補助金減を補うため、助成金を活用し教育環境の維持に努めている。 ・学校長・副学校長・担当理事との報連相は随時機能し、学校運営に関わる理事等ともグループチャットで情報共有が行われている。意思決定は明確で、医師会との連携も円滑であり、教育活動は適切に運営されている。 ・毎年、自己点検と学校関係者評価を計画的に実施し、運営委員会で結果説明を行い、ホームページでも公開している。評価結果の公表体制は整っている。 ・学校情報はホームページや Instagram で公開され、最新の活動も発信されている。地域の小中学校への出前講話、職場体験受け入れ、健康フェスタ参加など、地域連携を通じた社会貢献も積極的に行われている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・評価と改善の連動が不十分である。PDCA を実効性のあるものにするため、改善策の明確化と実施管理体制の強化が必要である。

第三者評価	適合
-------	----

コメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の地域の課題として、行政と教育機関は密に連携していく必要がある。 	

3. 総括

3-1 高等課程（准看護師科）総括

高等課程では、准看護師としての基礎能力育成を進め、資格試験に向けた支援が成果を上げ、准看護師資格試験全員合格を達成した。一方、今年度は退学者が2名（昨年度より1名減）発生し、昨年度と同様に学習意欲低下や精神的負担が要因となった。勤労学生が多い中での学習時間確保や早期支援が課題である。

地域医療への貢献として、唐津東松浦地区への就職率84%と高い成果を維持している。

3-2 専門課程（看護師科）総括

専門課程では、新カリキュラムに沿った教育が概ね円滑に進み、模試成績の向上など学修成果が見られた。しかし国家試験合格率は96%と全国平均(94.1%)を上回ったが、全員合格には至らず、引き続き支援強化が必要である。今年度は1・2年生で計2名の退学者が発生し、昨年度と同程度の状況であった。卒業生の県内就職率は80%で地域貢献は継続しているが、学年間の実践力差やDP到達度のばらつきへの対応が求められる。

3-3 養成所全体としての総括

高等課程・専門課程ともに教育成果は高く、資格試験合格や国家試験合格、地域就職率の高さから、地域医療を支える人材育成機関としての役割を果たしている。特に唐津東松浦地区への就職率は高等課程84%、専門課程80%と高い。

一方、両課程で退学者が発生している。増加はみられていないが、昨年度と同様に学習意欲低下や精神的負担への早期対応が課題である。学生数減少による財源縮小や教員業務量増加も課題であり、学習支援・教員体制・財務基盤の強化が今後求められる。

令和8年5月8日

学校長 服巻 信也

学校評価実施責任者
副学校長 市川 豊子（令和7年度）